

現代日本論概論「現代日本における職業」

第9講 ジェンダーと労働

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[テーマ] 性別による働きかたのちがい

1 課題

別紙のグラフ (Suzuki and Tanaka 2013, p. 204) (総務省統計局「労働力調査」2010年による) をみて、次のことについてまとめよ

- 男女間のちがい
- そのようなちがいが生まれる原因

2 復習

- 性別役割分業とは?
- キャリア間の葛藤とは?
- なぜ非正規雇用が選択されるのか?

3 M字型曲線

現在の日本社会では、女性の労働力率を年齢階級別に描くと、30代後半を底とする曲線となる。このグラフの形がアルファベットのMに似ているので、「M字型」曲線と呼ばれる。

一方、男性の労働力率は、20代後半～50代まで90%を超えており、また、中年期の落ち込みがない(高原型)。

文献

嵩さやか・田中重人 (編) (2007) 『ジェンダー法・政策研究叢書9 雇用・社会保障とジェンダー』東北大学出版会.
Suzuki, F. and Tanaka S. (2013) “Women, work, and family issues.” Tanaka, S. (ed.) *A quantitative picture of contemporary Japanese families*. Tohoku University Press, pp. 195–234